

2025 年度

文学部 国際日本・中国学科※

(中国文学科) 総合型 (小論文型)

【小論文】

※2025 年 4 月より、文学部 中国文学科の名称を
国際日本・中国学科に変更いたしました。

60 分 100 点

※①漢詩・漢文／②論語／③三国志の3つの中から1つ選択し、解答すること。

①漢詩・漢文

問題 次の『莊子』『胡蝶の夢』に関するA・Bの文章を読んで、設問に答えなさい。(100点)

A むかし、莊周は自分が蝶になった夢を見た。楽しく飛びまわる蝶になりきって、のびのびと快適であつたからであろう。自分が莊周であることを自覚しなかつた。ところが、ふと目がさめてみると、まぎれもなく莊周である。いったい莊周が蝶となった夢を見たのだろうか、それとも蝶が莊周になった夢を見たのだろうか。莊周と蝶とは、きつと区別があるだろう。こうした移行を物化(すなわち万物の変化)と名づけるのだ。

B 自分が「ここ」といつているものも、相手から見れば、「あちら」になる。自分が「あちら」といつているものも、相手からすれば、「ここ」になる。「かれ」には、「かれ」の立場をもとにした是非の判断があり、「われ」には、「われ」の立場をもとにした是非の判断がある。このように彼此の概念は、その立場を交換すれば逆転するものであるから、はたして動かせない「かれ」があり「これ」があるのか、それとも「かれ」と「これ」といった対立は最初から存在しないのか、根本的に疑問になるのである。

問一 Aは「胡蝶の夢」と呼ばれる寓話であるが、莊周と蝶とはどのような関係だと思えますか。Bを参考にして、あなたの考えを三〇〇字以内で述べなさい。

問二 Aを読んで、「夢」と「現実」との関係についてあなたはどのように考えますか。三〇〇字以内で述べなさい。

〔参考：A・Bがもとづいた原文〕

A 昔者莊周夢為胡蝶。栩栩然胡蝶也。自喻適志与。不知周也。俄然覺。則蘧蘧然周也。不知周之夢為胡蝶与、胡蝶之夢為周与。周与胡蝶、則必有分矣。此之謂物化。

B 是亦彼也、彼亦是也。彼亦一是非、此亦一是非、果且有彼是乎哉。果且無彼是乎哉。

※①漢詩・漢文／②論語／③三国志の3つの中から1つ選択し、解答すること。

② 論語

問題 次の文章を読んで、設問に答えなさい。(100点)

孔子の門下生は多士濟々でしたが、彼らに対し、孔子はどのように教えていたのでしょうか。「政事」に長けていた冉有(ぜんゆう、ぜんゆう)と季路(きろ、しろう)とがそれぞれ孔子に「聞いたらすぐにおこなうものではないか」と同じ質問をしたところ、季路には「父兄といったかたがおられるのに、どうしてまた聞いてすぐおこなえましょう」と答え、冉有には「聞いたらすぐおこないなさい」と答えました。

いまでもそうですが、子路のような積極的な人は何事にも自分で進もうとするものです。問題なのは、冉有のような消極的な人をどう前進させるかです。消極的な人に対して、孔子はどう接したのでしょうか。

孔子と冉有(冉求)とのやりとりを材料にして考えてみましょう。

冉求曰わく、子の道を説とはざるにあらず。力足らざるなり。

冉求曰、非不説子之道。力不足也。

子曰わく、力足らざる者は、中道にして廢す。今女は画かれり。

子曰、力不足者、中道而廢。今女画。

(雍也第六)

冉求「先生の道がうれしくないのではありません。力がたりない(すすみたくてもすすめない)のです。」

先生「力がたりないものは中途まで来て投げだしますが、いま君は(まだすすめるのに)見かぎりをつけてしまった。」

冉求は、孔子が示した〈道〉を学びたいとは思っているけれども、自分にはその力が足りない、と告白しています。自分を正直に「力の足りない者」と見なしたこの告白は、謙虚なものとしてほめられてもよさそうです。しかし、孔子の受け止め方は違いました。冉求は「力が足りない」から前進できないと考えていますが、孔子がいう「力の足りない者」とは、「中途まで」は前進する者を指します。孔子に従えば、冉求の告白は「力の足りない」ことを言い訳にして、ただ「しない」だけのことであって、けっして「できない」ではないのです。

『生きる力がわく「論語の授業」 史上最強の指南書をやさしく読み解く』による)

問一 冉有(冉求)と季路(子路)が同じ質問をしたにもかかわらず、孔子はどうして相手によって違う回答をしたと思いますか。二〇〇字以内で述べなさい。

問二 あなたが冉求だとしたら、孔子から「力足らざる者は、中道にして廢す。今女は画れり」と言われてどのように答えますか。あなたの経験を交えながら四〇〇字以内で述べなさい。

※①漢詩・漢文／②論語／③三国志の3つの中から1つ選択し、解答すること。

③三国志

問題 『三国志演義』の一節 **A** および図版 **B** に関して、設問に答えなさい。(100点)

A

「朕がこの世におるのも、もはや長いことではない」

嘆息した先主は、使者を成都へ遣わし、丞相諸葛亮・尚書令李厳らに、遺言を伝えるゆえ取り急ぎ永安宮に参るよう命じた。孔明らは太子劉禪を成都に残して、先主の次子魯王劉永・梁王劉理とともに永安宮へ馳せ向かった。

さて孔明は永安宮に到着するや、先主の病いの重いのを見て枕元にまろび伏した。先主は彼を床のかたわらに坐らせ、その背を撫でながら、

「朕は丞相を得て幸いにも帝位をきわめることができたが、己の浅はかさから丞相の言葉を聞かず、かかる惨敗をみずからもとめてしまった。これを悔やんでついに病いを得、もはや余命いくばくもない。しかるに、太子は虚弱であるゆえ、どうしてもそなたに大事を託しておきたかったのじや」

(立間祥介訳『三国志演義』による)



(横山光輝『三国志』による)

(注) *先主 蜀の初代皇帝劉備。

*成都 蜀の都。今の四川省成都市。

*丞相 宰相。

*永安宮 今の重慶市にあった白帝城。

*孔明 諸葛亮の字 (本名以外につける呼び名)。

問一 **B** で劉備はどうして孔明にこのような「頼み」をしたと思いますか。あなたの考えを三〇〇字以内で述べなさい。

問二 あなたが孔明だとしたら、劉備に対してどのように答えますか。その理由も含めて三〇〇字以内で述べなさい。